

長研だより

No. 2

発行日

令和2年10月9日（金）

研修センターの長期研修では、所長、次長、各課長等による「長期研修ゼミナール」を、今年度は計15回実施していきます。様々な分野の話を聴くことにより、視野を広げ、教員としての資質・能力を向上させることを目的としています。

今回の「長研だより」では、猪瀬所長、櫻井教科教育課長を講師にお迎えした、長期研修ゼミナールの様子をご紹介します。

「学び続ける姿勢」の大切さを



9月30日（水）に実施されました猪瀬所長の講義では、「長期研修を、今後の自身の研究への『契機』とすること」や「現場に戻ってからは、より大切となる」などのお話があり、研究に対する焦りや不安を抱えている長期研修生にとって、大きな気付きをもたらしたようです。

長期研修生からは、「『結果を出すことだけに着目するのではない』という言葉に、視野が狭くなっていたことを気付かされた。学び続ける姿勢を忘れずに、今回の研修を通して学んだことを子供たちに還元できるようにになりたい。」などの感想が聞かれました。

「研究のあるべき姿」とは

9月28日（月）に実施されました櫻井課長の講義では、「研究に臨む姿勢」や「研究の具体的な進め方」についてのお話があり、長期研修生に大きな示唆を与えました。

長期研修生からは、「グループ活動を取り入れてくださったので、仲間との様々な意見交換により、自分の考えを深めることができた。」や「これまで



で何気なく使っていた一つ一つの『言葉』を、今後はよく吟味し、徹底的に調べる姿勢を身に付けていきたい。」などの感想が聞かれました。